

地域医療連携室 だより

宮城県立がんセンター
MIYAGI CANCER CENTER

平成19年7月1日発行



発行 地域医療連携室
TEL (022)384-3151
FAX (022)381-1169



がんセンター地域連携挨拶

宮城県病院事業管理者 兼 がんセンター総長
木村 時久

この度、宮城県病院事業管理者兼がんセンター総長に就任いたしました。

私は旧古川市の病院事業管理者兼病院長を8年半、大崎市発足と共に大崎市の病院事業管理者を1年の計約10年地域医療に関わってまいりました。

日本の地域医療提供体制の崩壊の危機が連日マスコミに報道されています。このような時代に、地域医療を預かる医師会や医療機関の先生方、及びがんセンタースタッフがお互いに連携することはがんで苦しむ患者様にとっては大きな福音になると思われます。

今年度、国はがん対策基本法により「がん医療の均てん化」を目指しており、一方で文科省は全国の大学を対象として「がん専門家育成(がんプロフェッショナル)事業」を進めようとしています。これは医師ばかりでなく看護師、薬剤師、放射線技師等も含めたがん医療の専門家の養成を目指しています。

さらに、臨床と研究がお互いに協力し合い、がん医療を進歩させることを目的としたものです。

特に、宮城県では県立がんセンターと東北大学病院の二施設が、都道府県がん診療連携拠点病院として認定されました。一県で二ヶ所の指定は宮城県が初めてです。本がんセンターが国の期待に応えるためには、地域医師会、及び医療機関の先生方のご協力は欠かせません。

本がんセンターが東北地方のがん医療のメッカになる日を目指して、センター職員一同頑張りますので地域の先生方の一層のご協力をお願い申し上げます。

診療科紹介

緩和医療科

診療部長 小笠原 鉄 郎

■ 当科の概要

平成12年6月、県民の請願が実り、県内3カ所目の緩和ケア病棟が当がんセンターに併設され本年で丸5年になりました。

開棟から昨年6月まで、麻酔科の専門医が担当しておりましたが、8月より内科・消化器科専門医(日本緩和医療学会評議員)である小笠原鉄郎が引き継いで診療にあたっております。

緩和医療科は緩和ケア病棟に25床、本院に4床の病床を有しております。

昨年8月の引き継ぎ以来10ヶ月間の入院

患者数は延べ156名で、緩和ケア病棟で看取りを行った患者数は87名です。

約半数弱の患者さんは、症状が軽快、不変のまま外来で経過観察となったり、かかりつけ医(在宅支援診療所)の先生に在宅緩和ケアを依頼させていただいている方々です。

本年から施行されました、がん対策基本法の重点項目に、病初期からの緩和ケアの充実が挙げられ、当院は都道府県がん診療拠点病院として、県内における緩和ケアの普及・教育さらには在宅緩和ケアのためのネットワークづくりの拠点としての重責を担うことになりました。



■ 当科の特徴

従来、緩和ケアの対象のがん患者さんは、もはや根治を期待できなくなった病期の方がほとんどでしたが、最近の緩和ケアの考え方は、病期には関係なく、がんの初期から終末期までの患者さんが対象で、どの時期においてもQOLを維持し、その人らしい人生を全うできるようサポートをしていくのが目標とされています。

そのためには、患者さんを取り巻くご家族もサポートの対象としなくてはなりません。

身体科医、精神科医、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士だけでなく医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、鍼灸師、音楽療法士、ボランティアも重要なチームメンバーです。

ケアの第一はさまざまな苦痛症状のコントロールですが、病初期から頻度が高いのが痛みです。がんによる痛みのコントロールは、WHOの推奨する薬物療法で、90%以上が可能といわれております。

現在当院では、緩和ケア病棟のみならず、緩和ケアチームを立ち上げ、院内すべての入院患者、再来患者さんの求めに応じる体制を整えております。

■ スタッフ紹介

現在は、小笠原鉄郎(診療科部長・医療部長:内科・消化器科専門医)1名で診療にあたっております。

精神的対応には、月2回、県立精神医療センターの医師に応援をいただいております。

また4月より臨床心理士が配属され、いわゆるスピリチュアルケアを担当しております。

緩和ケアの担い手の中心はホスピス認定看護師、がん疼痛認定看護師を含む看護スタッフです(写真)。

■ 診療状況

外来診療は、毎週 水・金曜日 8:30～11:00(予約制)です。
患者さんお一人に、30分から1時間近く面談することがありますので、ご紹介いただく際は、電話で相談支援センター(地域医療連携室:内線115)を通しての予約をお願いいたします。

■ 診療実績

平成18年度の緩和ケア病棟の入院患者さんのうち61%が院内各科から、9%が院外からのご紹介でした。

紹介元の主な施設は、仙台医療センター、東北大学病院、東北労災病院などでした。

がんの種類は、多い順に、肺がん、消化管がん、頭頸部がん、乳がん、肝胆膵がん、婦人科がん、その他と全領域に亘っていますが、頭頸部がんが多いのが当院の特徴です。

平均在院日数は51日で、退院後、在宅支援診療所、訪問看護ステーションなど、院外の診療機関との連携を依頼させていただいた患者さんは12名でした。

今後は、連携してくださる先生方とともに在宅ホスピスケアをさらに充実させていきたいと考えております。

◆ 多地点テレビ会議システム利用による市民向けがん情報講演会開催のご案内 ◆

がんの予防や医療についての正しい知識を!

がん患者とその家族 ～家族ががんになったとき～

日 時 2007年7月15日(日) 13:30～16:00

講 師 佐伯俊成(広島大学病院 医系総合診療科)
「家族ががんになったとき～心という治癒力を高めるための6か条～」

講 師 田村里子(東札幌病院医療相談室ソーシャルワーカー:社会福祉士)
「がん患者の家族を支える～ありのままを毎日の暮らしの中から～」

対 象 テーマに関心のある方

参 加 費 無 料

場 所 宮城県立がんセンター大会議室

参加申し込み方法 お名前、ご住所、希望会場名をご記入の上、FAXまたははがきでお申し込み下さい。

締 切 2007年7月6日(金) 17:00 必着
折り返し参加証が送られます。

申し込み先 〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
国立がんセンターがん対策情報センター

「市民向けがん情報講演会」宛

FAX: 03-3547-6074 TEL: 03-3547-5201(ex.5685)

ご希望が多い場合には、ご要望に添えないこともありますのでご了承下さい。

外来新患診療体制表 平成19年6月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
消化器科		●	●	●	●	●
内科	血液内科	●	●	●	●	●
	循環器科	●		●	●	
	化学療法科	●		●		
呼吸器科		●	●	●	●	●
外科	乳腺科	●	●	●	●	
	外科	●	●	●	●	●
整形外科			●		●	●
脳神経外科		●		●		●
頭頸科(耳鼻いんこう科)		●	●		●	
形成外科			●			●
婦人科		●	●		●	
泌尿器科		●		●	●	
放射線科		●	●		●	●
緩和医療科				●		●

診療受付時間：午前8時30分～11時00分までをお願いします。
TEL (022)384-3151(代) FAX (022)381-1169

センターからのお知らせ

◆宮城県立がんセンターセミナー

●第149回

- 演題：「がん対策基本法と緩和ケア」
- 演者：小笠原 鉄 郎 先生
宮城県立がんセンター・緩和医療科
- 日時：平成19年7月24日(金)
17:30～18:30
- 場所：宮城県立がんセンター
大会議室

がん対策基本法によって緩和ケアは新たな段階に入ろうとしている。国および地方公共団体は、早期からの疼痛等の緩和、居宅でのがん医療を提供するための連携体制の確保、医療従事者に対するがん患者の療養生活の質の維持向上に関する研修の機会を確保することが義務づけられた。わが国の緩和ケア病床は3171病床となったが、終末期に限定されたイメージがあった。基本法によって今後は一般病床、緩和ケア病床、在宅における緩和ケアのシームレスな提供体制の構築をめざすことになろう。この流れを概観し、今後の緩和ケアのあり方を考えたい。

交通案内

J 宮城交通バス
名取市福祉バス

R 名取市福祉バス

自家用車

東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
名取駅西口から「県立がんセンター」行きを利用
「げんき名取号(愛島線)」
名取市役所前から「北目上原」行きを利用
仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

—相談支援センターのご案内—

○受付時間 (面談) 午前10時から12時
(電話) 午前8時30分から午後5時15分まで

○面談場所 がんセンター 相談室 (1階)

○電話 (022) 384-3151 (代)

宮城県立がんセンター

〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
電話(代表) (022)384-3151 FAX(総務班) (022)381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。